

第19回清水町みらい会議要旨

○開催日 令和6年9月25日（水）

○会 場 清水町役場第1会議室

○出席者（委員）

- ・岩崎 清悟 座 長（静岡ガス株式会社 元取締役会長）
- ・中山 勝 副座長（一般財団法人企業経営研究所 理事）
- ・植田 勝智 委 員（ファルマバレーセンター センター長）
- ・長倉 一正 委 員（有限会社長倉書店 代表取締役）
- ・三船 美也子 委 員（日本親子体操協会 理事）

議題：地域公共交通に関する課題と提言

※町内及び圏内公共交通の現況や利用動向について意見交換を行った。

1 交通手段について

(1) バス

- ・ 今までのみらい会議で、サントムーン柿田川を起点として新しい公共交通をつくったらどうかという意見が出た。埼玉県のカ越市で「イーグルバス」という民間のバス会社がある。山間地のバス運行を工夫して黒字化に成功した事例があるので、研究するのも良い。ひとつのやり方として、民間バス会社のバス停以外のところにサブのバス停をつくり、そこで利用者を乗せて本来のバス停で降ろすという方法もある。
- ・ バスの利用者数と便数を確認して、定員まで乗っていないのであれば、バスではなく大型車にするのはどうか。周遊回数が増えて、少し待てば来るので便利になる。
- ・ 「一番利用している人の利便性を増やす」のか、それとも「今まで利用していない人にも使ってもらう」のか、目的をどちらに置くのかによって、方向性が変わってくる。若い世代は車で移動することが多いが、そういう世代がバスを乗りやすくするにはどうすれば良いかを考えたときに、ルートの利用率を上げる方法を考えたほうが良い。

- ・ 現在、周遊に1時間かかってしまっている。15分くらい待てば来てもらえるようになってほしい。そのためには、周遊ルートよりも、ハブから行って帰ってくる直線的な運行で時間短縮を図るのはどうか。
- ・ 循環バスは現在朝7時30分から夕方6時30分くらいまで、40人乗りサイズのバスを2台運行している。運転手付きのバスを借り上げるため、運転手の拘束時間が関係する。2024年問題もあり、便数を1本減らさないといけないくらいになっている。現状のまま15分おきの運行にすると、バスが8台必要になり、費用がかかる。一方で、サントムーン柿田川を中心市街地と捉え、バスのハブにして4方向にバスルートを作ると、30分待つ程度になる。
- ・ 路線バスは1時間1本程度の便数で、利用率が下がっている。三島市―清水町―沼津市の路線までもが撤廃路線の一つになっている。町が補助して沼商路線、沼津三島路線を運航しているのが現状だ。
- ・ 循環バスは町内を周るので、町内で用を済ます目的に限定される。一方で、町内に勤務先や学校など、全ての目的地がそろっているわけではない。町内だけで完結させるのではなく、周辺地域も含めて、どうしたら移動しやすいかを考えると良い。その場合は循環バスだけではなく、路線バスとうまくつなげて、町外に行く人は路線バスを乗り継いでいけるようにすれば、利用者数は増えるのではないかな。
- ・ 路線バスは運輸局の許可制である。循環バスと路線バスが競合しないようにしている。

(2) バス以外

- ・ 清水町には駅がないので、サントムーン柿田川を中心市街地とした場合、駅に求める機能とは何かを考えたほうが良い。乗降客がいることによる交流、商業、賑わいなどの機能がある。どこかに集めるような仕組みがあれば、駅でなくても構わないという考え方ができる。
- ・ ヨーロッパは自転車が快適に走れる、のびのびと暮らせるまちだ。車主体ではなく、そういったところを町の特徴としたまちづくりはできないか。
- ・ U b e r を実験的に取り入れるのはどうか。

- ・ 安全面を配慮したコミュニティバスなどは、一定条件があれば一般人でも運転できるといった規制緩和ができるといい。
- ・ 循環バスは西ルートと東ルートがあるが、バスの乗降客数が少なく、空気を運んでいると言える。交通空白地区でライドシェアやオンデマンドバスができないか。
- ・ 町は細い道が多いので、小型バスではなく10人乗りワンボックスカーでもいいのではないかな。地域づくり協力隊として二種免許を持っている人を集めて運転させる。そうすれば国からも補助金が出る。
- ・ バス運転手のOBに、保険などしっかり対応をした上で運転してもらおう。運転手やバスの借上げよりも、そのほうが安くなるのではないかな。

2 道路行政について

- ・ 町は傾斜が無く平地が多い。
- ・ 高齢者が歩いて暮らせるまちづくりを考えたときに、外に出やすいことが町のセールスポイントになる。現状は、役場前の道や国道一号の歩道以外に、歩道らしきものがない。
- ・ 昔の田んぼのあぜ道を整備してほしい。あぜ道に車を通さないようにして、シニアカー専用道路にする。そして大きな道路にはしっかりとした歩道をつくる、そのような道路計画をつくれないうか。
- ・ 町の中心市街地に郵便局、病院、スーパーを集約し、そこに交通機関をつなげると歩いてくらすまちになる。
- ・ 幹線道路とそれにつながる道路の位置づけの違いをしっかりと出したほうがよい。
- ・ 都市計画道路玉川卸団地線から南伸し、的場地区から徳倉への新橋をつくる予定となっている。徳倉橋だけでは渋滞し、南北の交通が不便である。
- ・ 三島駅北口にバス停ができたので、そのままバスで北上できるようになった。距離も減り、料金が安価になったので利用者が増えたという。

3 高齢者の交通利用について

- ・ 健康長寿になるためには、外へ出る、人と交わる機会をつくるのが大切だ。どのように高齢者に外に出ていく機会を与えるかは町にとって重要だ。

- ・ 年間120～130人の高齢者が運転免許を返納している。高齢者は増えており、2045年にピーク（1万人程度）を迎え、そこから減少していく。
- ・ 高齢者を65歳からと設定しているが、65歳では免許返納をしないと思われる。
- ・ 平均寿命が向上しているので、老齢学会では、高齢者の年齢を引き上げる話が出ている。75歳を高齢者とし、後期高齢者をあと10歳引き上げようという動きがある。
- ・ 健康づくりの教室や居場所づくりのサロンなどの取組が、様々なところで浸透している。車を運転できる人は行きやすいが、免許を返納することを理由に行けなくなると言う高齢者がいた。そのときは、近くの公民館でやっている事業を紹介することができたが、外出の機会を失ってしまうこともあるのではないか。地域でどのようなサービスが受けられるかの情報と一緒に、交通手段もあわせて案内できると良い。
- ・ 交通事故を起こしにくい、安全性能の高い車を高齢者にあっせんするのも良いと思う。
- ・ 免許返納後の高齢者には、バスよりもタクシーを考えるべきだ。
- ・ 免許返納後、家にこもってしまう高齢者が多い。バスやタクシー、電車の乗り方を知らない人もいる。返納するのであれば早いタイミングで返納させて、バスなどに慣れてもらうのも良い。
- ・ 循環バスは病院・商店に寄れるようにしている。特に、中徳倉と外原は高齢化が進んでいるためか、静岡医療センター、サントムーン柿田川に行くために、バスを利用している人が多いと思われる。
- ・ 町には元気なお年寄りが多い。コミュニティやジムなど、目的を持って施設を予約したら送迎車が来てくれると嬉しい。スポーツクラブの送迎者も子どもだけでなく、有料でもいいので大人も乗れたら嬉しいという意見もあった。
- ・ 循環バスに乗ると、ゆうすいポイントが付く。健康アプリと連動させて、高齢者の楽しみの一つとするのも良いのではないか。